

隊員の皆さんを 直撃 インタビュー

舞鶴市出身の自衛官に話を聞いてみました



機関科
大西竜也さん

進路を考えたとき、大学への興味がなく働きたかったので、自衛官だった兄の影響もあり、日星高校卒業後すぐに自衛官になることを決意しました。自衛官は中学生のころから興味があった職種で、機械に関心があったことと身体の動かせることなので魅力を感じました。実際自衛官になり、機関科で仕事をしていますが、思い描いていた通り、機械を触ってみるととても楽しく毎日違う作業ができます。また、技術が上がると、できることが増えていくので成長を感じることもできます。最初は分からないことばかりでしたが先輩や上司に組み立て方を聞いたり、キャリアアップごとに学校へ学びに行けて丁寧に教えてもらえます。学校では学生だけで機械を分解したり、改めて組み立てたりして仕組みが理解できる面白さがあります。出港があると、さまざまなところへ行けます。艦にいる人とはその期間ずっと一緒にいるため家族のような存在になり心強いです。地元ということもあり、地元に残ったり帰ってきたりする同級生と飲みに行けるのも楽しみのひとつです。



機関科
小林睦さん

東舞鶴高校を卒業後、アルバイトをしていたところ、自衛広報官の人が自宅に来て予備自衛官補にならないかと提案をいただき、予備自衛官補になりました。その後はアルバイト中にも見かける制服の自衛官の人たちのことが気になりました。知っていくうちに私も自衛官になりたいと思い、必死に勉強し、自衛官になりました。今は機関科でエンジン関係も触ります。構造や設計、どのようにこのエンジンが使われるのかを知っていくと仕事が面白くなってきます。訓練は厳しいですが、出港で日本全国いろいろなところに行けたり外国に行けたりするところが楽しいです。

5歳の子どもがいますが、子育てとも両立しています。艦での仕事は自分に合い、続けていきたいと思っている中、出港や緊急出港があったときに両親が協力してくれるので対応でき、地元の恩恵を感じます。親が近くにいるととても安心です。艦などに連れて行っているためか、最近子どもが「母ちゃん格好いい、将来は母ちゃんみたいな自衛官になる」と言ってくれ、これからも自衛官を続けたいと思います。

教育部教官
石田剛さん



幼い頃、自衛隊で教官をしていた父と当時の学生さんたちが休日に触れ合う家族のような光景に憧れ、自衛官を目指しました。現在、昔の父と同じ教官として仕事をしています。私は1班約20人ほどを取りまとめている、その班の長として20人乗りの短艇や座学などを教えています。技術的なことはできる人もできない人もいるため教える難しさはありますが、学生が教えたことができるようになることにやりがいを感じます。教える中で大切にしていることは基本となる姿勢や礼儀、あいさつです。大きな声ではっきりとあいさつができると顔や名前を覚えてもらえ、働きやすい環境がつかれると思うからです。技術は後からついてきます。教官の役割として、相談を受けることや生活のサポートも大きな仕事です。年の近い学生も多く、相談しやすい関係を心掛けて普段からコミュニケーションをとっています。とはいえ距離が近すぎると教官として指導できなくなるので絶妙な距離感を大事にしています。

休みもあり、出港すればいろいろなところに行ける楽しさを感じつつ、緊急時など必要時には出動する覚悟や使命感を持ち仕事ができます。



1 艦の機関室の点検 2 ロープが運動するか確認
3 学生を指導する石田さん 4 艦内アナウンスもスムーズ

海自施設の一般公開

近頃、赤れんがパークから北吸棧橋までの間を、多くの人が歩いているのを見かけます。実際、ここ5年間で赤れんがパーク周辺を訪れる観光客数は、約36万人から約74万人と2倍以上に増えています。これには北吸棧橋を始め、自衛隊施設の一般公開が大きく寄与しており、今では、舞鶴の人気観光スポットの一つになっています。一般公

開するためには、多くの自衛官が対応することになり、海上自衛隊の役割や仕事、艦艇を広く知ってもらうために行われています。

- ◆北吸棧橋・海軍記念館：土・日、祝日10時～15時（14時45分最終受付）
- ◆東郷邸：毎月第一日曜日10時～15時（14時45分最終受付）
- ◆第23航空隊：土・日、祝日14時～15時

毎年大盛況イベント「フェスタ」

昨年までは「サマーフェスタ」として7月に開催していましたが、今年から気候のよい5月に「グリーンフェスタ」を開催することにしました。舞鶴基地の人気イベントで、普段見られない護衛艦や潜水艦などの一般公開や舞鶴音楽隊の演奏、まいつる海自カレーの販売などで、約1万6,000人の観光客や家族連れで賑わいました。



▲土・日、祝日は北吸棧橋が観光客や市民でにぎわう



▲特務艇「はしだて」の一般公開



海自カレーは、艦艇によって自慢の味があり、イベントではいつも好評で売り切れていました。そこで2017年から海上自衛隊の協力で、調理指導を受け認定された市内店舗で、誰でも本物の「海自カレー」を食べられるようにしました。舞鶴地方総監部、舞鶴市、舞鶴商工会議所が「まいつる海自カレー」の普及に係る協定書を締結し、舞鶴の海自カレーを新たな名産として全国に発信しています。



▲市内店舗で食べられる海自カレー
◀昨年のサマーフェスタで護衛艦ひゅうがを見学する人たち